



Title	街角でも哲学：哲学カフェ&バー@應典院
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 2001, 9, p. 34-34
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/6928
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

街角でも哲学——哲学カフェ & バー @ 應典院

昨年(2000年)の11月4日(日)、應典院において臨床哲学Cafe&Bar(以下、哲学カフェと略す)が開催された。哲学カフェとは、いくつかのルール(「ひとの話をよく聴く」「指名されてから発言する」「思想家の受け売りや自分の信条を長々と述べない」「自分の実感に基づいて話す」)のもとで、参加者が飲み物(アルコールもOK!)を飲みながら、普段使っている言葉で哲学的に考え、議論を交わすことをねらいとおり、今回は一枚の絵をきっかけにして議論をするグループ(研修室A)と、「他人の近さと遠さ」というテーマに基づいて議論をするグループ(研修室B)の、2つのグループに分かれて実施された。(なお、過去2回の哲学カフェの様子については、それぞれ、『メチエ』のvol.7, vol.8において報告されている。)

應典院での開催は前年(2000年11月5日)に引き続き2回目であったが、今回も男/女の性別を問わず、年齢も下は10代の方から、上は60代の方まで、計50名あまりの方々が参加してくださった。

哲学カフェは、「大学の外へと哲学を連れ出してゆく」という意味において、臨床哲学の試みの一翼を担うのはもちろんのこと、今回参加してくださった方々からいただいたアンケートの結果からも、その需要の高さが窺われ、私たちとしても、今後はさらにフットワークを軽くして、定期的に関催していきたいと考えている。